

## 中山間地域等直接支払制度

---

### 平成30年度における 制度推進の取組について

第4期対策における中間年評価、  
第三者委員会での意見等を踏まえて



# 1. 県の中間年評価より

## 1) 第三者委員会で出された意見

- (1) 解決すべき課題への効率的なアプローチのため、今後、担い手の確保状況や経済的要因、農用地の形状(傾斜の不利性)、人口減少度合いなどの関連性を調査することが必要。
- (2) 将来も農用地の維持が可能とした集落の、活性化につなげた手法等の事例を収集・横展開し、将来の先細りを懸念する集落に対し、上向きのきっかけを示すべき。
- (3) 人口減少が特に懸念される中山間地域では、中山間地域等直接支払制度のみで農村維持を考えるのではなく、基盤整備、生産流通、担い手育成に係る施策の組合せにより、地域に若い世代を誘導すべき。
- (4) 構成員の高齢化、担い手不足等の農村が抱える基本的な課題を解決しない限り、いずれは、現状維持を回答した集落を含め、中山間地域の維持管理が困難となるであろう。中間年評価で「終わり」ではなく、部局横断的な施策を展開することによる中山間地域農業の「生き残り」を考える時期がきている。

# 1. 県の中間年評価より

## 2) 第三者委員会での意見より

(1) 今後、担い手の確保状況や経済的要因、農用地の形状(傾斜の不利性)、人口減少度合いなどの関連性を調査することが必要。

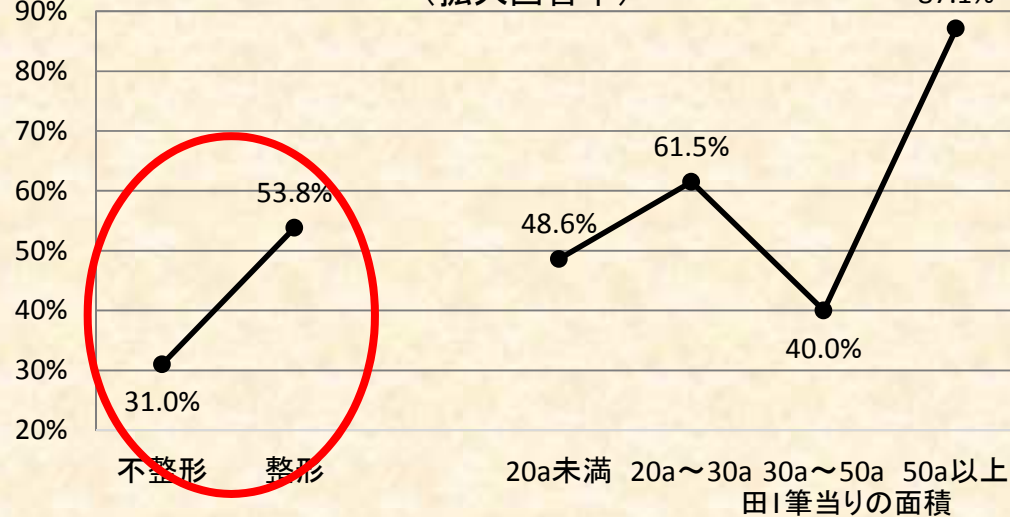


→整形された農用地が多い協定ほど、担い手の確保が進み、将来制度に継続して取り組めるとの回答(拡大回答)が多かった。

田の整形度合いと担い手確保の関係  
(担い手の確保率)



田の整形度合いと、拡大回答の関係  
(拡大回答率)



# 1. 県の中間年評価より

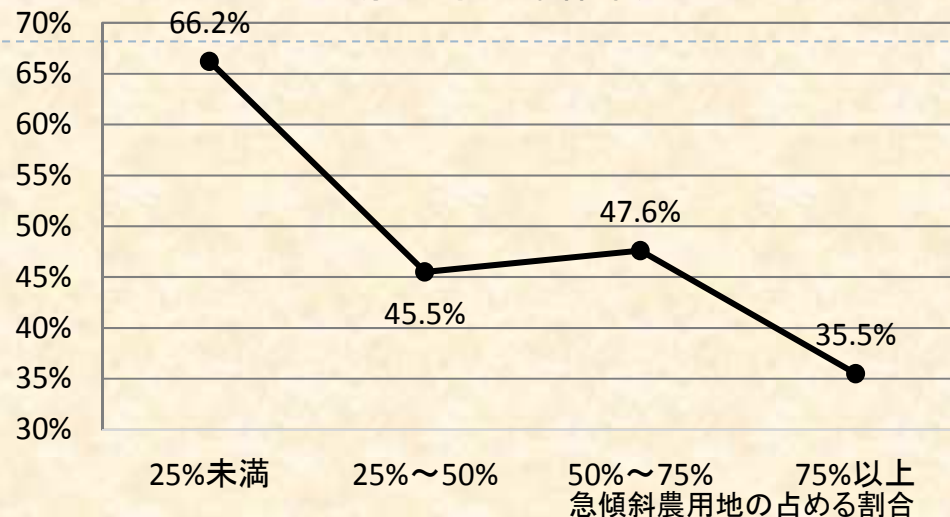
## 2) 第三者委員会での意見より

(1) 今後、担い手の確保状況や経済的要因、農用地の形状(傾斜の不利性)、人口減少度合いなどの関連性を調査することが必要。

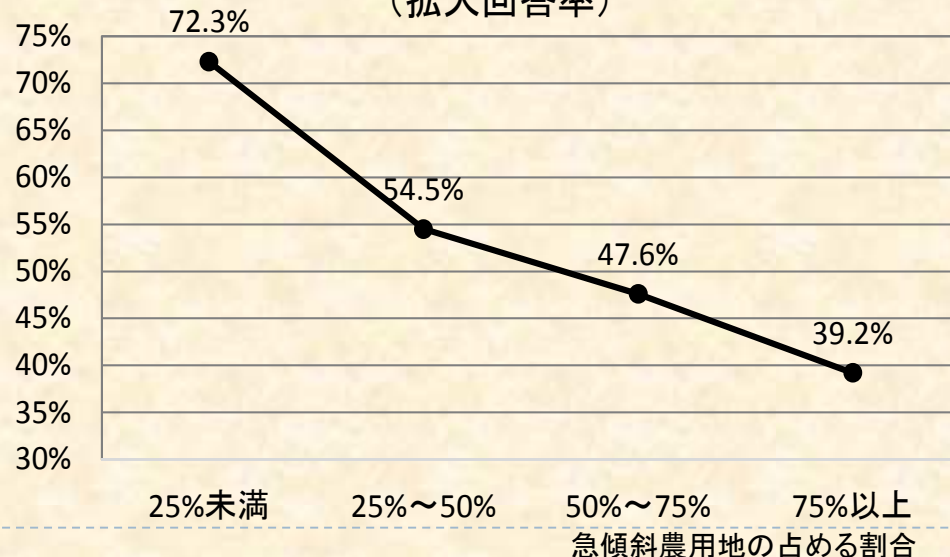


→傾斜が緩やかな条件であるほど、担い手の確保が進み、「拡大回答」が多かった。

急傾斜の占める割合と担い手確保の関係  
(担い手の確保率)



急傾斜の占める割合と、拡大回答の関係  
(拡大回答率)



# 1. 県の中間年評価より

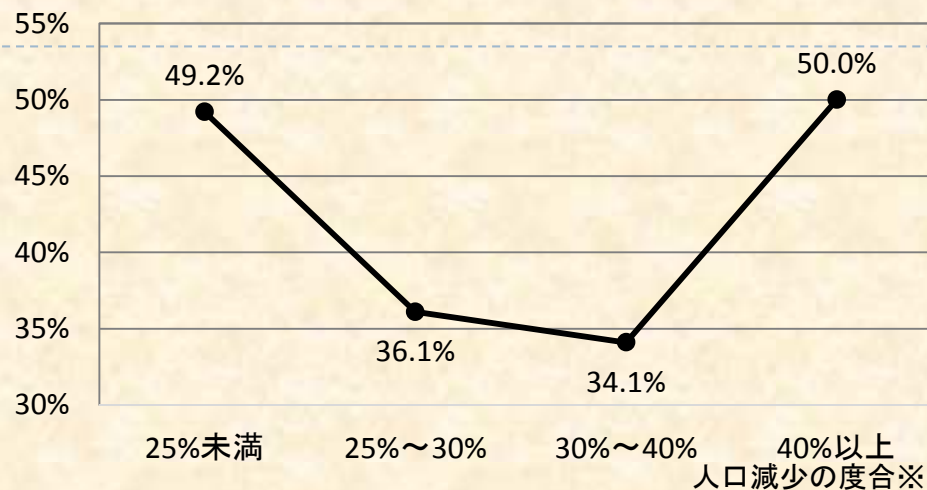
## 2) 第三者委員会での意見より

(1) 今後、担い手の確保状況や経済的要因、農用地の形状(傾斜の不利性)、人口減少度合いなどの関連性を調査することが必要。

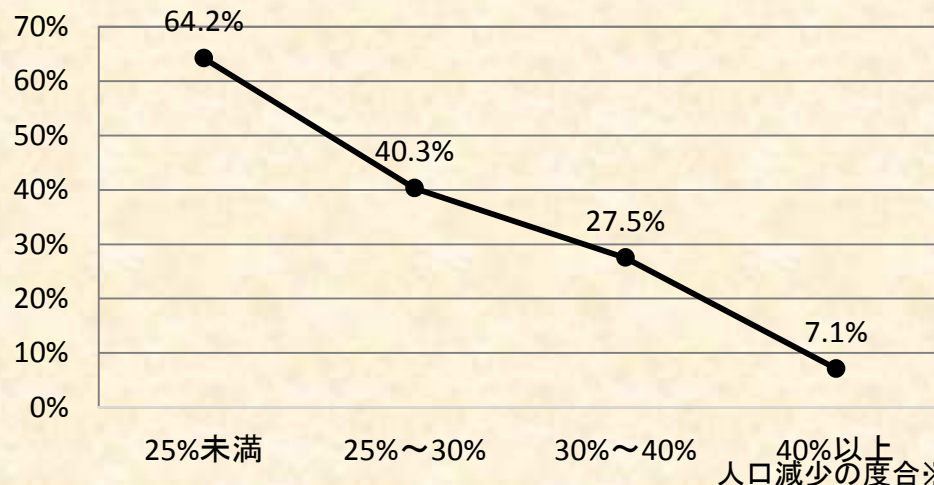


→人口減少度合いが大きい協定ほど、担い手の確保に苦勞し、「拡大回答」が少なくなる傾向(?)。

人口減少の度合と担い手確保の関係  
(担い手の確保率)



人口減少の度合と、拡大回答の関係  
(拡大回答率)



※農林業センサスで、2010年→2015年での、協定の属する旧市区町村の世帯数の減少率を指標とした。



# 1. 県の中間年評価より

## 2) 第三者委員会での意見より

(2) 将来も農用地の維持が可能とした集落の、活性化につなげた手法等の事例を収集・横展開し、将来の先細りを懸念する集落に対し、上向きのきっかけを示すべき。



→ 県内3カ所(観音寺市五郷、さぬき市田面、三木町小菘)の活性化事例、制度の概要を掲載した事例集を作成、関連団体あて配付済み。

→ 今後、さまざまな機会を捉えて配付

- ・協定あて個別配付、事例協定での勉強会
- ・集落営農研修会、JA集落座談会での配付
- ・(市町、普及センター)新規就農相談で、参入希望者あて説明



# 1. 県の中間年評価より

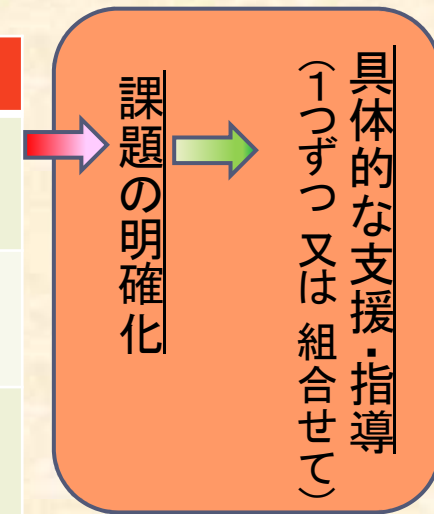
## 2) 第三者委員会での意見より

(3) 人口減少が特に懸念される中山間地域では、中山間地域等直接支払制度のみで農村維持を考えるのではなく、基盤整備、生産流通、担い手育成に係る施策の組合せにより、地域に若い世代を誘導すべき。

(4) 構成員の高齢化、担い手不足等の農村が抱える基本的な課題を解決しない限り、いずれは、現状維持を回答した集落を含め、中山間地域の維持管理が困難となるであろう。中間年評価で「終わり」ではなく、部局横断的な施策を展開することによる中山間地域農業の「生き残り」を考える時期がきている。

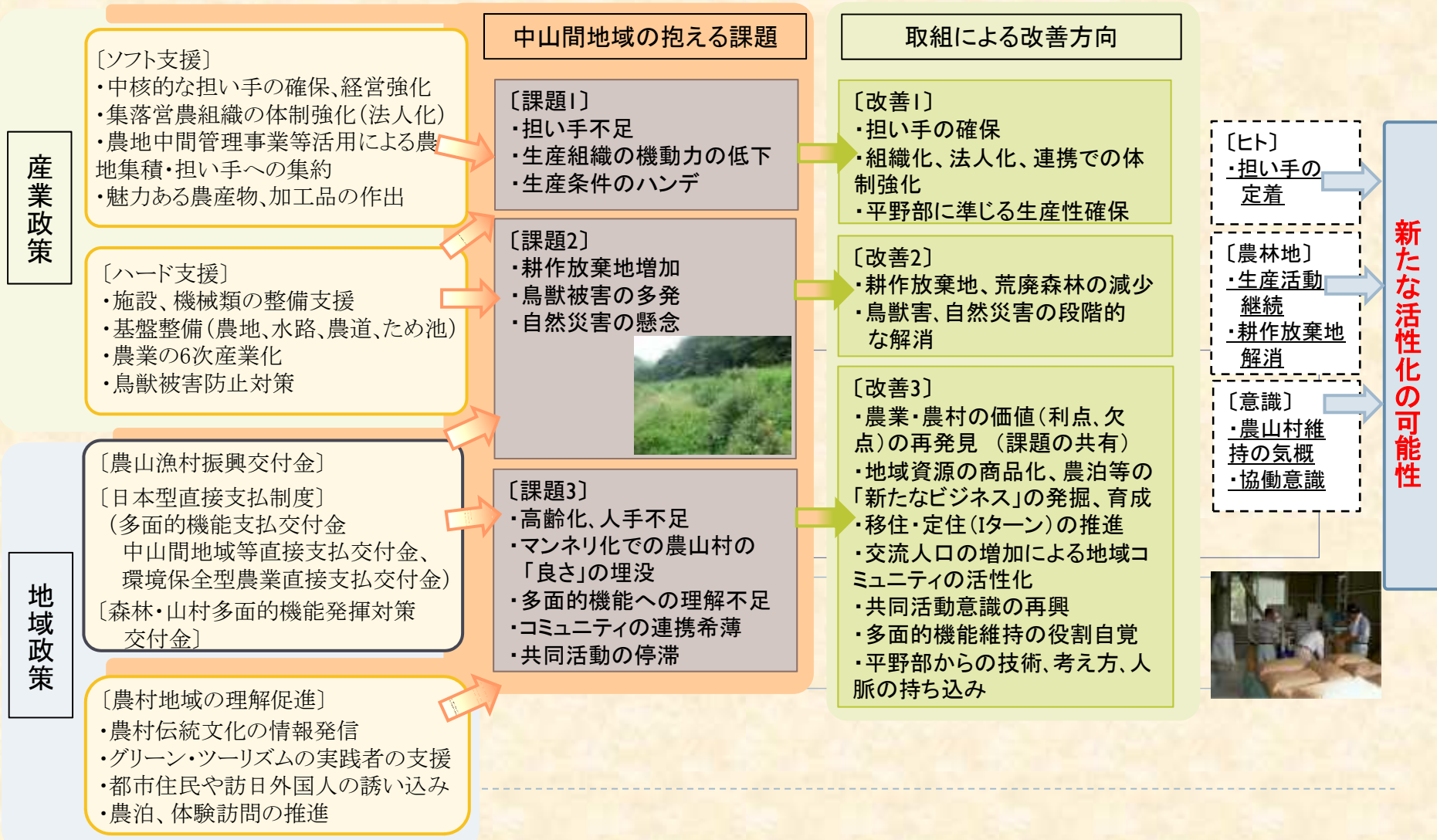
「維持・継続できる協定」と「継続が難しい協定」の比較

○維持・継続できる協定	比較材料	△継続が難しい協定
・世代交代が進んだ ・担い手、若手の確保	人材、労力の確保	・労力不足、担い手不足 ・リーダー等の不在
・農地集積等の進展 ・組織化・法人化の進展	農業の条件整備	・農地集積等の低調 ・鳥獣被害の拡大、多発
・農業所得の増加 ・集落全体が活発化	副次的事項	・農業採算性に不安 ・(制度)遡及返還への不安



## 2. 各機関連携による、課題解決について

### 中山間地域における現状と課題、改善に向けた取組の整理





## 2. 各機関連携による、課題解決について

### 2) 直払制度のデータより これまで(H29)



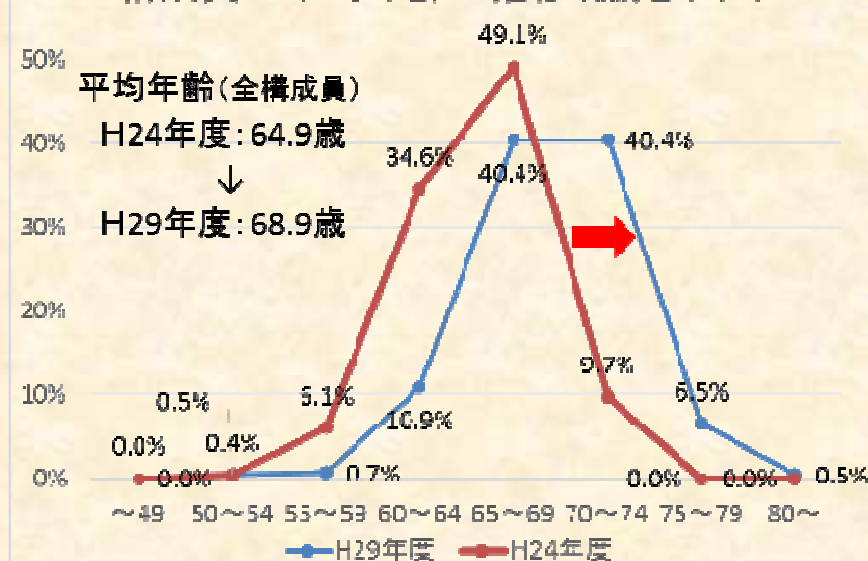
しかし、

- ・世代交代が進んでいない。
- ・担い手の確保が進んでいない。「担い手が確保された」が42%どまり。

- ・これまでの活動が続けられない。  
「縮小回答」が53%。

**まず、農村地域を守る人材(人手)の  
確保を急ぐ必要**

構成員の平均年齢の推移(協定単位)

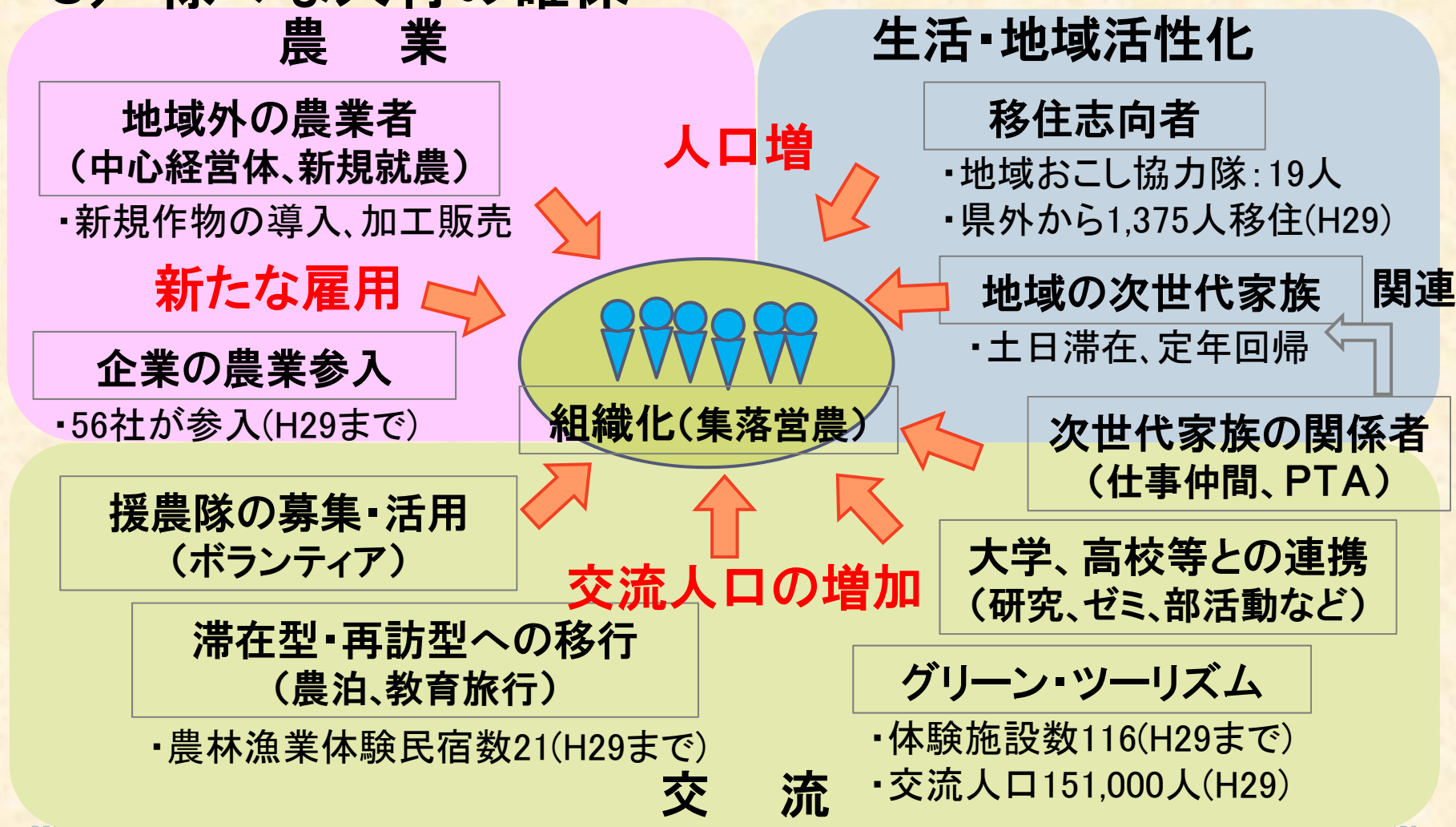


「続けられない理由」

- 1位: 労力不足
- 2位: リーダー等の不在
- 3位: 農業の担い手不足

## 2. 各機関連携による、課題解決について

### 3) 様々な人材の確保



## 2. 各機関連携による、課題解決について

### 4) 最近の集落へのサポートの動き ～アンケート調査を元にした、各機関連携による支援指導～

例：多面的機能支払の活動組織等へのアンケート

- ・ 基盤整備の必要性  
必要 ・ 不必要 ・ ..
- ・ 農地集積の進捗度  
進んでいる ・ 遅れている ・ ..
- ・ 集落営農の必要性  
必要 ・ 不必要 ・ ..

① 必要な情報の収集・整理

土地改良部局  
(公財)県農地機構 (土地改良事務所) 担い手部局  
(普及センター)  
連携

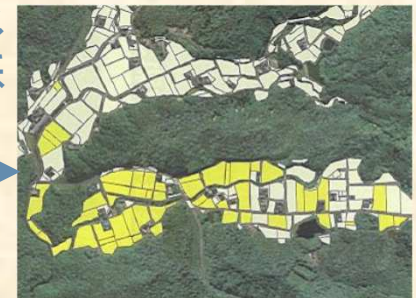
②

必要な支援の実施

熟度に応じた、



基盤整備実施



農地集積の推進



集落営農の推進

## 2. 各機関連携による、課題解決について

### 5) 今後の、担い手の確保、生産条件の改善への支援

→ 土地改良、生産流通、担い手部局、市町、農業団体の  
連携による支援

